

令和6年度 公開研究報告会

研究テーマ

「学びにつながる カリキュラム・マネジメント」

～高島スタンダードの検証 生活・理科・社会を中心に～

東京都立高島特別支援学校

研究研修部

■知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方の研究

在り方研

○目的

知的障害特別支援学校の小・中学部の教科指導と各教科等を合わせた指導の関係や考え方、普通学級における自立活動の考え方を整理し、知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方を示す。

○具体的な施策

都立知的障害特別支援学校における各教科等の内容や設定する授業時数の根拠を明らかにし、指導内容と指導時数の目安を検討していく。

■知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方の研究

在り方研

○本校での取り組み

今まで「各教科等を合わせた指導」にて、児童・生徒の現在や近い将来の生活場面を想定し、実際の・具体的な指導を行ってきた。これまでの方法に加え、目標や内容を焦点化し、系統立てて指導を積み重ねることにより、目標を確実に達成する授業を設定する必要がある。



- ・令和5年度より、小学部5年生、6年生において教科「生活」を設定し、取り扱うこととする。
- ・令和6年度より、中学部において教科「社会」「理科」を設定し、取り扱うこととする。

■本校の研究（目的）

- ・「生活」「社会」「理科」を中心とした各教科について、カリキュラム・マネジメントの視点から、教育課程に基づき、各種指導計画が作成され、実施し、評価を行う仕組みを見直し、高島スタンダードを確立する。



- ・担当者が変わっても教える内容が標準化、共通化されることを実現し、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る。

■カリキュラム・マネジメントの4つの側面（特別支援学校）

カリキュラム・マネジメントとは、「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」です。さらに、実現していくための4つの側面として、以下のように整理されています。

- ①教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容などを**教科等横断的な視点**で組み立てていくこと
- ②教育課程の**実施状況を評価**してその**改善を図っていくこと**
- ③教育課程の実施に必要な**人的又は物的な体制を確保するとともに**その改善を図っていくこと
- ④**個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫**すること

■本校の研究（方法）

- ①学習内容を明確にした単元配列表の構築
- ②単元配列表⇒年間指導計画⇒単元の学習計画の作成および教育課程におけるPDCAサイクルの確立
- ③単元の学習計画の蓄積、3観点を踏まえた学習評価の実施のシステム化

■ 1年目の研究

教科部会

- ①教科：学習指導要領内容表と本校での実践(単元)の対応、照合および確認
- ②各教科等を合わせた指導：
教科との関連性
単元の系統性

学年研究会

- 国語・算数 国語・数学
生活単元学習
単元計画の蓄積
- ①単元の学習計画
- ②評価
- ③改善
- ④各教科と各教科等を合わせた指導との関係の検証

■ 1年目の研究【教科部会】

【学習内容チェック表】

【小学部】									
小学部【算数】1段階「A数量の基礎」									
目標									
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等							
ア 身の回りのものに気付き、対応させたり、組み合わせたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	イ 身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりするなど、数量に関心をもちて関わる力を養う。	ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもちて取り組もうとする態度を養う。							
内容		1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組
① 身の回りに関わる数学的活動 知識及び技能 ア 身の回りに気付けて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 ② 目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。		○	○	○	○	○	○	○	○
(イ) 思考力、判断力、表現力等 ② 対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えること。			○	△	△		△	△	
イ ものともとの対応させることに関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ② ものともとの対応させることに関わる数学的活動									
④ 分割した絵カードを組み合わせたりすること。									
⑥ 関連の深い絵カードを組み合わせたりすること。									
(イ) 思考力、判断力、表現力等 ⑥ ものともとの関連付けに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりすること		○	○		○	○	○	○	○

学習指導要領との照合

【学習内容表】

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領P 95～108参照		
小学部【算数】1段階「A数量の基礎」		
目標		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
ア 身の回りのものに気付き、対応させたり、組み合わせたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	イ 身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりするなど、数量に関心をもちて関わる力を養う。	ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもちて取り組もうとする態度を養う。
内容		具体的な単元と内容
ア 具体物に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ② 具体物に気付けて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 ④ 目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ② 対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えること。		◎カレーライスを作ろう カレーの材料である具体物の模型に気がつき、模型を手を持ち鍋に入れる。
イ ものともとの対応させることに関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ② ものともとの対応させることに関わる数学的活動 ④ 分割した絵カードを組み合わせて組み合わせたりすること。 ⑥ 関連の深い絵カードを組み合わせたりすること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ⑥ ものともとの関連付けに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判		

学習内容の書き出し

特別支援学校学習指導要領解説

各教科等編 (小学部・中学部)

平成30年3月

文部科学省

参考
福島県特別支援教育センター
「学びの履歴シート」
(<https://special-center.fcs.ed.jp/>)

■ 1年目 【教科部会】研究の成果と課題

【成果】

- ・学習指導要領の構成や内容について各教科ごとに共通理解を図ることができた。
- ・学習指導要領に準拠した学習に取り組むことができているか見直すことができた。

【課題】

- ・学習指導要領に対応して、取り扱うことができていない学習内容がある。

■ 1年目 【学年研究会】研究の成果と課題

【成果】

- ・「単元の学習計画」のシステム化された様式のもと、「計画→実施→評価→改善」を進めることができ、効率的、効果的に授業を実施および評価できた。
- ・単元の学習計画に3つの評価基準を立てたことで評価が細かくなり、改善が具体的になった。授業をきめ細かく工夫することにつながり、児童の状態や特性、興味に応じた適切な授業を構築することにつながった。

【課題】

- ・取り上げた2つの単元から**教科の関係性や横断的な視点での検討**を行ったが、まだ不十分で**範囲や視点を広げ、また他教科にも広げていく**必要がある。

■ 2年目の研究課題

単元配列表の構築

基準性、系統性、教科横断的視点のある
年間指導計画の作成

■2年目の研究

教科部会

- ①教科：単元配列表の作成
年間指導計画の作成
- (1) 基準性のある学習内容
の検討
- (2) 教科の学年配列表の
作成
- (3) 学年の系統性のある学
習内容の検討

学年研究会

- 学年の教科配列表の作成
- (1) 教科横断的な視点での
検討
- (2) 教科と合わせた指導の
関連性

■2年目の研究【教科部会】 単元配列表作成の取り組み

学習指導要領に基づき
学習内容・単元の開発と精選

教科の単元配列表
作成(例:生活)

R4教科部会
【学習内容表】

R5教科部会
単元の開発



特別支援学校学習指導要領解説
各教科等編 (小学部・中学部)
平成 30 年 3 月

文部科学省



【生活】 段階ごとの単元配列			
小学部【生活】 目標			
具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能	(1)活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよき、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。		
思考力・判断力・表現力等	(2)自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。		
学びに向かう力・人間性等	(3)自分のことに取り組みたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。		
段階の目標	1段階	2段階	3段階
知識及び技能	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよき、それらの関わり等に必要の基本となる習慣や技能を身に付けるようにする。	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよき、それらの関わり等に必要となる習慣や技能を身に付けるようにする。	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよき、それらの関わり等に必要となる習慣や技能を身に付けるようにする。
思考力・判断力・表現力等	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付く、感じたことを表現しようとする。	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
学びに向かう力・人間性等	自分のことに取り組みようとする。身近な人々、社会及び自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとする態度を養う。	自分のことに取り組みようとする。身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとする。意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとする態度を養う。	自分のことに取り組みようとする。身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。
内容	1段階	2段階	3段階
コ 社会の仕組みと公共施設	自分の家族や近所に関心をもちつと及び公園等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の住む地域のことや図書館や児童館等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の地域や近郊の地理などの社会の様子、警察署や消防署などの公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)身の回りにおける社会の仕組みや公共施設の仕組みや公共施設に関心をもち、それらに自ら働きかけようとする。	(イ)教師の指導を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に関心をもち、それらに自ら働きかけようとする。	(ロ)日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。
	(イ)身の回りの社会の仕組みや公共施設の使いかたなどについて関心をもちつと。	(ロ)身近な社会の仕組みや公共施設の使いかたなどを知ること。	(ハ)日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設を知ったり、活用したりすること。
【家族・福祉・近所の人】	<指導内容>・家族や福祉の様子に関心をもちつと ・身近な地域に興味や関心をもち、自分との関わりに関心を持ち、それらの働きを知る		
	☆「わたしのまわり」 ○かぞへのまわり ○いまでははらくひと	☆「わたしのまわりのひとたち」 ○かぞへのまわり ○いまでははらくひと	☆☆「わたしのまわりの人」 ○わたしのまわり ○いまでははらくひと
	※家庭で家族構成が異なり、また個人情報に関する内容が含まれるため、授業での取り扱いが難しく、夏休前に取り扱っていない。各教科等を合わせた指導の中で「お手紙」に「家族の一員としての意識」などを取り扱う機会があり、そこで取り組んでいる。		
【学校】	<指導内容>・教室の場所や用途に関心をもちつと。 ・学校で働く人に興味や関心をもち、自分との関わりに関心を持ち、それらの働きを知る		
	☆「わたしのまわり」 ○わたしのまわり	☆☆「わたしのまわりのひとたち」 ○あいにいこう(校内のまわりの人々) ○なにをすところかな(校内の職務の役割)	☆☆☆「わたしのまわりの人」 ○学校ではたらく人 ・学校で働く人と自分の関わりに関心を持ち、それらの働きを知る。 ・学校で働く人の職業名とははたしているおまの役割が分かる。
	・校内探検などを通して、自分の学級や教室、図書室などに関心をもち、その場所や名前を知る。 ・担任の先生や保健の先生など、自分に身近な先生が分かり、気持ちを安定させて生活する。	・学校にある教室の名称や用途が分かる。 ・学校で働く様々な人に関心を持ち、	

■2年目 研究の経過

○単元配列表作成の取り組み

- ・令和4年度「学習内容チェック表」「学習内容表」「学習指導要領」から項目（学習内容と目標）の整理
- ・取り扱うことができていない単元の開発
- ・教科書（☆本）から単元を作成
- ・学習指導要領の段階に応じた単元の配列を検討

生活 単元配列表

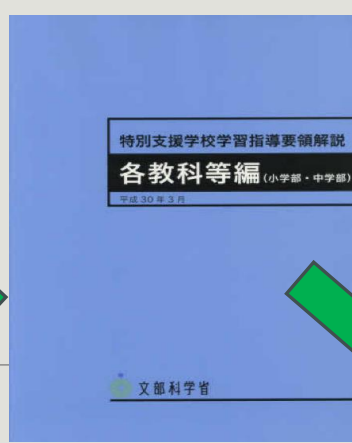
①学習指導要領 学習項目および 学習内容

内容	1段階	2段階	3段階
<p>社会の仕組みと公共施設</p>	<p>自分の家族や近所に関心をもつこと及び、身の回りや身近な社会の仕組みや公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア)身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気付き、それを教師と一緒にみんなにえようとすること。</p> <p>イ)身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。</p>	<p>自分の家族や近所に関心をもつこと及び、身の回りや身近な社会の仕組みや公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとする。</p> <p>(イ) 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。</p>	<p>自分の地域や周辺の地理などの社会の様子、警察署や消防署などの公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。</p> <p>(イ) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。</p>
<p>【家族・親戚・近所の人】</p>	<p><指導内容>・家族や親戚の様子に関心をもつこと ・身近な地域に興味や関心をもち、自分との関わりに気付き、それらの働きを知ること</p>		
	<p>「わたしのかぞく」</p>	<p>☆☆「わたしのまわりのひとたち」 ○かぞくのやくわり ○ちいきではたらくひと</p>	<p>☆☆☆「わたしのまわりの人」 ○わたしのかぞく、きんじょの人</p>
	<p>家庭で家族構成が異なり、また個人情報に関する内容が含まれるため、授業での取り扱いが難しく、意図的に取り扱っていない。教科等を合わせた指導の中で「お手伝い」「家族の一目としての意識」などを取り扱う機会があり、そこで取り組んでいる。</p>		
<p>【学校】</p> <p>学校</p>	<p><指導内容>・教室の場所や用途に関心をもつこと 学校で働く人に興味や関心をもち、自分との関わりに気付き、それらの働きを知ること</p>		
	<p>「わたしがっこう」 「わたしがっこう」 校内探検などを通して、自分の学級や音室、図書室などに関心をもち、その場所名称を知る。 担任の先生や保健の先生など、自分に身近な先生が分かり、気持ちを安定させて生ずる。</p>	<p>☆☆「わたしのまわりのひとたち」 ○あいにいこう(校内の周りの人々) ○なにをすところかな(校内の施設の役割) ・学校にある教室の名称や主な用途がかる。 ・学校で働く様々な人に関心をもつ。</p>	<p>☆☆☆「わたしのまわりの人」 ○学校ではたらく人</p>

②学習の段階

③☆本に準 拠した単元を 配置

特別支援学校学習指導要領解説
各教科等編（小学部・中学部）
P.552



① 学習指導要領 学習項目

特別支援学校学習指導要領解説
各教科等編（小学部・中学部）
各教科 生活 P.51

コ 社会の仕組みと公共施設

自分の家族や近隣に関心をもつこと及び公園等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。
- イ) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。

目標・内容の一覧(生活)

② 学習の段階

① 学習指導要領 学習項目

学部	小学部		
内容	1段階	2段階	3段階
コ 社会の仕組みと公共施設	自分の家族や近隣に関心をもつこと及び公園等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の住む地域のことや図書館や公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の地域や周辺の地理などの社会の様子、警察署や消防署などの公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に関心をもつこと。	ア) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に関心をもつこと。	ア) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に関心をもつこと。
	イ) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。	イ) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。	イ) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。

【学校】：教室の場所や用途に関心をもつこと、学校で働く人に興味や関心をもち、自分との関わりに気付き、それらの働きを知ることなどの指導内容がある。

【いろいろな店】

【社会の様子】

① 生活 学習指導要領 学習内容

【学校】：校内探検などを通して、校舎の場所や名称を知ることが大切である。身近な先生が分かり、気取らない先生など、自分に合った先生と関心を持ち、その場を上手に活用することが大切である。

【いろいろな店】：店の種類や名称を知ることが大切である。身近な店や通学路にある店に関心をもつことが大切である。

【社会の様子】：自分が住んでいる地域の自然や街の様子に関心をもつこと、自分が住んでいる地域の自然や街の様子の特徴が分かること、自分の住んでいる地域の名称、住所が分かること、地域や社会の出来事に興味や関心をもつことなどの指導内容がある。自分が住む近所には商店、公園、学校、駅などがあることに気付き、それらに関心をもつことが大切である。

せいかつ ☆☆☆



文部科学省

せいかつの きまり

- としょかんや こうえんなどを
つかうときの きまり…………… 82
- のりものを つかうときの きまり
…………… 84
- 火じや きんきゅうのときに
つかうもの…………… 85
- マナーを まもって 気持ちよく 86

わたしの まわりの 人

- わたしの かぞく、きんじょの 人
…………… 88
- 学校で はたらく人…………… 90

しらべてみよう

- しょうひんは どこから きたのかな
…………… 92
- わたしたちの 町…………… 94
- こく민의しゅく日について… 96
- こく민의しゅく日の しゅるい 97

町で はたらく人に あいにいこう

- 町の あんぜんを まもるために
はたらく人たち…………… 98
- のりものに のろう…………… 100
- 校がい学しゅうに いこう…………… 102

花を そだてよう

- たねを まこう…………… 104
- そだてよう…………… 105
- 花のようすを つたえよう…………… 106
- たねを とうろう…………… 107

めざせ! 生きものはかせ

- 生きものを さがそう・
かんさつしよう…………… 108
- 生きもの ひみつ はっけん!
つたえよう…………… 110
- 生きものず…………… 112

草花や

- はる・なつ…………… 115
- あき・ふゆ…………… 115

望と 天気

- たいようと月…………… 116
- 空と 天気…………… 118

きせつの ずかん

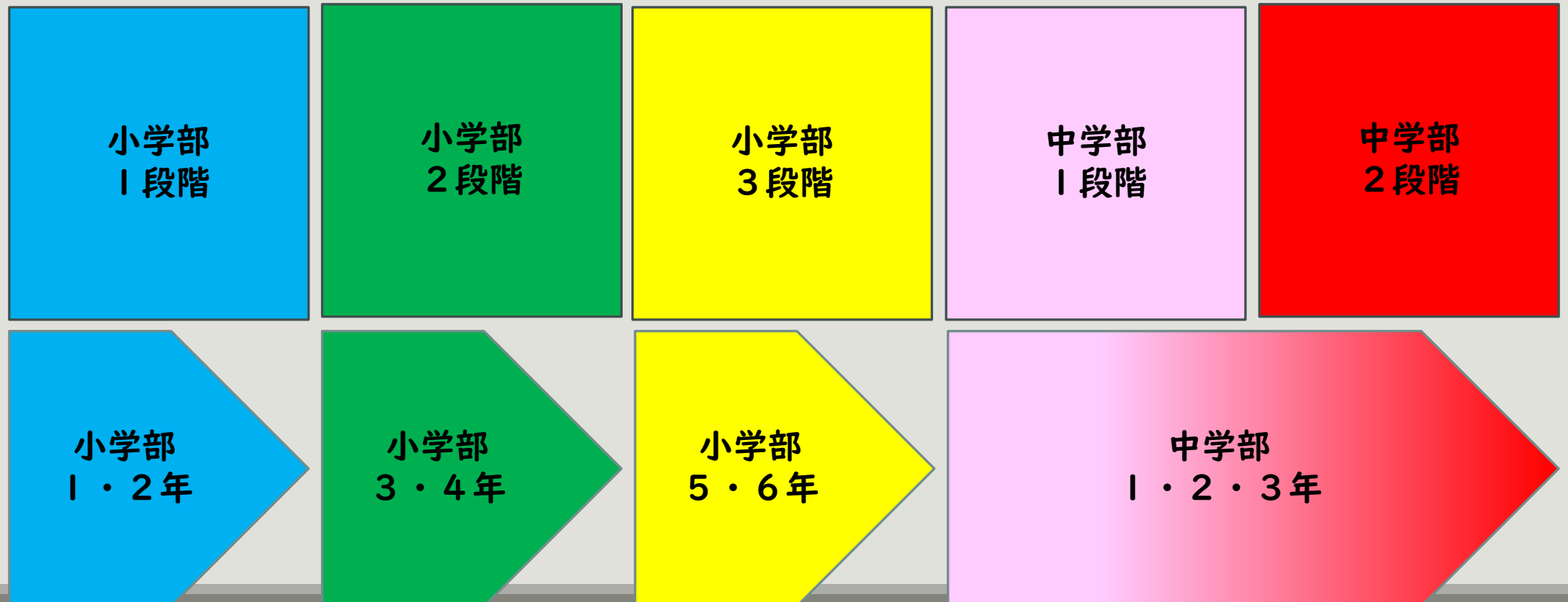
- はるの ずかん…………… 120
- なつの ずかん…………… 121
- あきの ずかん…………… 122
- ふゆの ずかん…………… 123

内容	1段階	2段階	3段階
コ 社会の仕組みと公	自分の家族や近隣に関心をもつこと及び公園等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の住む地域のことや図書館や児童館等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の地域や周辺の地理などの社会の様子、警察署や消防署などの公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
公共施設	(7) 教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとする。⇐	(7) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。⇐	(7) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。⇐
公共施設の	(4) 身近な社会の仕組みや公共施設の使用の方などを知ること。⇐	(4) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。⇐	
関心をもつこと⇐ 、自分との関わりに気付き、それらの働きを知ること⇐			
	☆☆「わたしのまわりのひとたち」↓ ○かぞくのかやくわり↓ ○ちいきではたらくひと↓	☆☆☆「わたしのまわりの人」↓ ○わたしのかぞく、きんじょの人↓ ↓	
個人情報に関する内容が含まれるため、授業での取り扱いが難しく、意図的に取り扱っていない。⇐ 「家族の一目としての音読」などを取り扱う機会があり、そこで取り組んでいる。⇐			
	☆☆「わたしのまわりのひとたち」⇐ ○あいにいこう(校内の周りの人々)⇐ ○なにををするところかな(校内の施設の役割)⇐	☆☆☆「わたしのまわりの人」⇐ ○学校ではたらく人⇐ ⇐	
	この場所⇐ ・学校にある教室の名称や主な用途が自分に分かる。⇐ ⇐	⇐	
	⇐ ⇐ ⇐	⇐	
	⇐ ⇐ ⇐	⇐	
	⇐ ⇐ ⇐	⇐	

③ ☆本に準拠した単元を配置

■ 単元配列表作成の取り組み

学習指導要領の段階を2学年ずつに充てて内容を構成



教科「生活」 R5教科の学年配列表

月

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小5	高島調査隊 校内【コ 学 校 2段階】	高島ラボ~きれいな花を咲かせよう~(ひまわり)【サ 動物の飼育・植物の栽培2・3段階】				高島ラボ~ 作って遊ぼう ~(風と遊ぼう) 【シ 風やゴ ムの働き2段 階】	高島調査隊 学校の周り 【コ 社会の 様子 3段 階】	高島ラボ~きれいな花を咲かせよ う~(ヒヤシンス)【サ 動物の飼 育・植物の栽培3段階】	高島ラボ~作って遊ぼう~(ゴムで 遊ぼう)【シ 風やゴムの働き	高島調査隊 学校で働く 人々【コ 学 校3段階】		
	高島ラボ~春と友達になろう~ 【サ 自然との触れ合い2・3	高島ラボ~夏と友達になろう~ 【サ 自然との触れ合い2・3							量ってみよう【シ 物と重 さ 2段階】R5取り扱いなし	高島ラボ~冬と友達になろう ~【サ 自然との触れ合い 3段階】		
小6	んけ 春 【サ 自然 との触れ合 い3段階】	高島たんけんたい 公園の役割 【コ 社会の様子・公共施設の 利用3段階】	高島たんけ んたい 夏 【サ 自然 との触れ合 い3段階】				高島たんけ んたい 図書館【コ 公共施設の 利用 2段 階】	高島たんけ んたい 秋 【サ 自然 との触れ合 い3段階】	高島たんけ んたい 郵便局【コ 公共施設の 利用 2段 階】	高島たんけ んたい 冬 【サ 自然 との触れ合 い3段階】	高島たんけんたい 駅【コ 公共施設の利用 3段階】	
		作ってあそぼう 風の力① 【シ 風やゴムの働き2・3 段階】					作ってあそぼう 風の力② 【シ 風やゴムの働き2・3 段階】	作ってあそぼう ゴムの力 【シ 風やゴムの働き2・3 段階】	作ってあそぼう ゴムの力 【シ 風やゴムの働き2・3 段階】	比べてみよう【シ 物 と重さ 3段階】 R5取り扱いなし		
												プチトマトを育てよう【動物の飼育・植物の栽培 2・3段階】

各学年

各単元

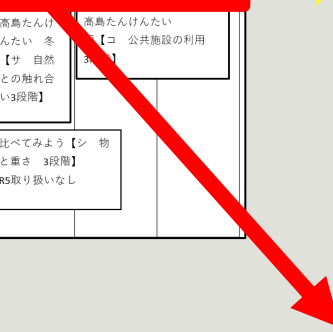
小6

③学年の教科配列表(小5) (シラバス) 教科横断的な視点での見直し

②教科の学年配列表 学年での系統性

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	近事をしよう ア【ア】 身近な言葉 ア【ウ】	絵本を読もう イ【ア・エ】 名前を書こう イ【ウ】 3ヒントで考えよう A	しるしをみつけよう Cウ 平仮名を読もうア【イ】 順番に出べよう Cア	しるしをみつけよう Cウ 平仮名を読もうア【イ】 順番に出べよう Cア	気持ちを話そう Aウ 伝えようやりとりしよう イ【イ】	気持ちを話そう Aウ 伝えようやりとりしよう イ【イ】						
算数	1より大きい数のわり算【数と計算】20Aア【イ】◎	20までのわり算【数と計算】20Aア【イ】◎	100までのわり算【数と計算】20Aア【イ】◎	1000までのわり算【数と計算】20Aア【イ】◎								
音楽	歌唱【小3段階Aア】 「みんなで仲良く歌おう」	器楽【小2段階Aイ】 「いろいろな楽器を鳴らしてみよう」 音楽づくり【小2段階Aウ】 「音遊びを楽しもう」	器楽【小3段階Aイ】 「楽器の音を聴いて鳴らそう」 音楽づくり【小3段階Aウ】 「イメージをもって音をみつけよう」	身体表現【小2段階Aエ】 「音楽を聴いて身体を動かそう」	身体表現【小3段階Aエ】 「リズムに合わせて表現しよう」							
図工	編賞【小2段階Bア】 「身近な人の演奏を聴いて好きな音をみつけよう」	編賞【小3段階Bア】 「身近な人の演奏を聴いて好きな音をみつけよう」	編賞【小3段階Bア】 「身近な人の演奏を聴いて好きな音をみつけよう」	編賞【小3段階Bア】 「身近な人の演奏を聴いて好きな音をみつけよう」								
体育	準備運動 列になってボール渡し(横・上下) 大玉投げし・手つなぎまわし・玉入れ	準備運動 列になってボール渡し(横・上下) 大玉投げし・手つなぎまわし・玉入れ	準備運動 列になってボール渡し(横・上下) 大玉投げし・手つなぎまわし・玉入れ	準備運動 列になってボール渡し(横・上下) 大玉投げし・手つなぎまわし・玉入れ	準備運動 列になってボール渡し(横・上下) 大玉投げし・手つなぎまわし・玉入れ							
生活	【動物の飼育・植物の栽培】2・3段階	【動物の飼育・植物の栽培】2・3段階	【動物の飼育・植物の栽培】2・3段階	【動物の飼育・植物の栽培】2・3段階	【動物の飼育・植物の栽培】2・3段階	【動物の飼育・植物の栽培】2・3段階	【動物の飼育・植物の栽培】2・3段階	【動物の飼育・植物の栽培】2・3段階	【動物の飼育・植物の栽培】2・3段階	【動物の飼育・植物の栽培】2・3段階	【動物の飼育・植物の栽培】2・3段階	【動物の飼育・植物の栽培】2・3段階

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小5	高島調査隊 校内【コ 学校】2段階	高島ラボ「きれいな花を咲かせよう(ひまわり)」【サ 動物の飼育・植物の栽培】2・3段階	高島ラボ「春と友達になろう」【サ 自然との触れ合い】2・3段階	高島ラボ「夏と友達になろう」【サ 自然との触れ合い】2・3段階		高島ラボ「作って遊ぼう(風と遊ぼう)」【シ 風やゴムの動き】2段階	高島調査隊 学校の周り【コ 社会の様子】3段階	高島ラボ「きれいな花を咲かせよう(ヒヤシンス)」【サ 動物の飼育・植物の栽培】3段階	高島ラボ「作って遊ぼう(ゴムで遊ぶ)」【シ 風やゴムの動き】3段階	高島調査隊 学校で働く人々【コ 学校】3段階		
小6	高島たんけんたい 春【サ 自然との触れ合い】3段階	高島たんけんたい 公園の役割【コ 社会の様子・公共施設の利用】3段階	高島たんけんたい 夏【サ 自然との触れ合い】3段階			高島たんけんたい 秋【サ 自然との触れ合い】3段階	高島たんけんたい 図書館【コ 公共施設の利用】2段階	高島たんけんたい 郵便局【コ 公共施設の利用】2段階	高島たんけんたい 冬【サ 自然との触れ合い】3段階	高島たんけんたい 公共施設の利用【コ 公共施設の利用】3段階	高島たんけんたい 春【サ 自然との触れ合い】3段階	高島たんけんたい 公園の役割【コ 社会の様子・公共施設の利用】3段階



年間指導計画 (生活)

令和5年度 東京都立高島特別支援学校 年間指導計画(教科)

学年	小学部	中学部	5年	
教科・領域等名	生活			
ねらい	(1) 具体的な活動を通して、社会や自然に関心を持ち、生活に必要な習慣や技術を身に付ける。(知・技) (2) 身の回りの生活や社会、自然の関わりについて理解し、感じたことを伝えようとする。(思・判・表) (3) 自分のことに取り組みをしたり、社会や自然に関心を持ち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとする。(学・人)			
担当教員				
年間授業時数	25単位時間			
使用教科書	日本書籍出版シリーズ「もういいかいまたよ」福音館書店 知育絵本「マークのまかん」鈴木出版 こどものまかん10「たべもの」ひかりのくに			
月	単元(題材)名	時数	主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)	学習指導要領(内容)
4	「私のまわりの人たち」(学校)		<input type="checkbox"/> 学校にある建物の名称や主な用途を調べる。 ◆教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとする。	小2 思 階 コ 社会の仕組みと公共施設 アイ 【学校】
5	「草花や木の葉で遊ぼう春」		<input type="checkbox"/> 赤塚公園で草花を見つけて写真で記録したり、遊んだりして形や色などの特徴を捉える。 ◆身近な生命や自然について関心をもって調べる。 ◆日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かる。	小3 思 階 サ 生命・自然 アイ 【自然との触れ合い】
6	「草花や木の葉で遊ぼう夏」		<input type="checkbox"/> 赤塚公園で草花を見つけて写真で記録したり、遊んだりして形や色などの特徴を捉える。春に見つけた草花と比べる。 ◆身近な生命や自然について知る。 ◆日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かる。	小3 思 階 サ 生命・自然 アイ 【自然との触れ合い】
7	「ものの重さを比べよう」		<input type="checkbox"/> 秤を使って二つのものの重さを比べる。 ◆天秤やばねを使うことができる。 ◆物には重いものと軽いものがあることに気付く。	小2 思 階 シ 物の仕組みと働き アイ 【物の重さ】
9	「町をしらべてみよう」(町の安全を守る人たち)		<input type="checkbox"/> 消防署や警察署が地域どこどこにあるのか探し、働いている人の様子を見学する。 ◆自分たちの住んでいる町や通っている学校の周りにある公共施設と役割について知り、表現しようとする。	小3 思 階 コ 社会の仕組みと公共施設 アイ 【公共施設の利用】
11	「花をそだてよう」(ヒヤシンス)		<input type="checkbox"/> ヒヤシンスの栽培をし、花の特徴や成長の様子を写真で記録して比べる。 ◆栽培を通して、生命や自然の特徴や変化が分かることと、感じたこと、気付いたこと	小3 思 階 サ 生命・自然 アイ 【動物の飼育・植物の栽培】

①教科の単元配列表

②教科の学年配列表

③学年の教科配列表 (シラバス)

- ① 学習指導要領の基準性
- ② 学年の系統性
- ③ 他教科との関連性

が適切な年間指導計画を作成できる。

■2年目研究の成果

- ・教科書(☆本)のあるものは学習指導要領の目標や内容が具体化された中で、単元配列の検討をすることができた。
- ・R4「学習内容表」の単元から重複しているものの検討や取り扱っていない単元の開発を☆本などの教科書を参考に取り入れることができた。
- ・「教科の学年配列表」により学年としてよりふさわしい「題材」や学年の系統性、順序性の検討を行うことができた。

■2年目 研究の課題

単元の学習計画での「学びの積み上げ」

- ・年間指導計画にまとめた単元の授業実践を通して、児童・生徒の学びの様子（エピソード）を具体的に捉え記録し、観点別に評価し、評価基準と照らし合わせることで、単元の妥当性を検証する。

効果的な指導形態の検証

- ・単元の学習内容において「教科別の指導」と「各教科等を合わせた指導」のどちらで指導を行うべきか検証する。

【生活・理科・社会】

■ 3年目の研究課題

単元の学習計画の蓄積、
3観点を踏まえた学習評価の実施のシステム化

年間指導計画の妥当性の検証

効果的な指導形態の検証

■3年目の研究

教科部会

＜各教科の年間指導計画の妥当性の検証＞

各学年・各教科の授業の実施において年間指導計画の内容・時期・時数等が妥当かどうか、記録する

→教科部会で共有

→学年の教科配列表(シラバス)の見直し

→R7年間指導計画に反映

＜効果的な指導形態の検証＞

→単元網羅表の作成

学年研究会

＜教科的見方・考え方のエピソード蓄積＞

生活・理科・社会

→教科的見方・考え方の習得ができたと評価できるエピソードを3観点の評価基準としてまとめる

＜効果的な指導形態の検証＞

→教科として扱う内容の妥当性の検討

教科等合わせた指導 主に生活単元学習

→教科等合わせた指導の中で、生活・理科・社会で扱う内容に繋がる単元について、エピソードの蓄積

■外部講師による助言・講演等

東京学芸大学

奥住 秀之 教授

5月 学年研究会の一部に参加・助言

6月 全校研修会講師

10月 授業観察 授業における講評・研究助言

2月 公開研究報告会 講演

■3年目【教科部会】研究の経過

○年間指導計画の妥当性の検証

○効果的な指導形態の検証

・8月と11月の2回に渡り、各教科部会ごとにR6年間指導計画の内容・時期・時数等が妥当か検証し、共有を図る。

・生活、理科、社会の新しい学習内容確認表を作成。単元が学習指導要領を網羅できているか確認。

8月R6年間指導計画の見直し① (生活)

令和6年度 東京都立高島特別支援学校 年間指導計画【教科】

学部	小学部	学年	5年	
教科・領域等	生活	クラスグループ		
ねらい	(1) 具体的な活動を通して、社会や自然に関心をもち、生活に必要な習慣や機能を身に付ける。(3D技能) (2) 身の回りの生活や社会、自然の関わりについて理解し、感じたことを伝えようとする。(思考表現) (3) 自分のことに取り組もうとしたり、社会や自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に主がらとする。(学人)			
担当教員				
年間授業時数	05単位時間			
使用教科書	「こいっく☆☆☆東京書籍」			
月	単元(課外)名	時数	主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)	学習指導要領 内容
4	「私のまわりの人たち“学校”」	単元を深めるためには週1時間では足りない。	○学校にある教室の名称や主な用途を調べる。 ◆教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に興味を持ち、それらを表現しようとする。	小3段階 コ 社会の仕組みと公共施設 アイ【学校】
5	「草花や木の葉で遊ぼう“春”」		○赤塚公園で草花を見つけて写真で記録したり、遊んだして形や色などの特徴を足える。 ◆身近な生命や自然について関心をもって調べる。 ◆日常生活に関わりある生命や自然の特徴や変化が分かる。	小3段階 サ 生命・自然 アイ【自然との触れ合い】 初めての「生活科」という授業で、高学年といえども、3段階のみは厳しかった。実態的に1段階も記載することは必須と思います。
6	「草花や木の葉で遊ぼう“夏”」 「音を聞いて夏を感じよう」 暑すぎて外に出られない。植物について深く学ぶには適切な時期ではない。	同上	○赤塚公園で草花を見つけて写真で記録したり、遊んだして形や色などの特徴を足える。春に見つけた草花と比べる。 ◆身近な生命や自然について知る。 ◆日常生活に関わりある生命や自然の特徴や変化が分かる。 ○効果音を聞いて、夏に関わる気候や行事の中で夏のイラストや写真のものを考える。 ◆夏の気候や行事について知る。 ◆夏の気候や行事について関心をもち、気付いたことを自分なりの方法で伝える。	小3段階 サ 生命・自然 アイ【自然との触れ合い】
7	「もの重さを比べよう」		○秤を使って二つのものの重さを比べる。 ◆天秤やばねを使うことができる。 ◆物には重いもの、軽いものがあることに気付く。	小3段階 シ 物の仕組みと働き アイ【物の重さ】 同上。
9	「町をしらべてみよう“町の安全を守る人たち”」		○消防署や警察署が地域のどこにあるのかを探し、働いている人の様子を見学する。 ◆自分たちの住んでいる街や通っている学校の周辺にある公共施設と役割について知	小3段階 コ 社会の仕組みと公共施設 アイ【公共施設の利用】

11月R6年間指導計画の見直し② (生活)

9	「町をしらべてみよう“町の安全を守る人たち”」 ◆今回のまとめ方であれば、生活単元学習の方が良いかもし	単元を深めるため	○消防署や警察署が地域のどこにあるのかを探し、働いている人の様子を見学する。 ◆自分たちの住んでいる街や通っている学校の周辺にある公共施設と役割について知	小3段階 コ 社会の仕組みと公共施設 アイ【公共施設の利用】
10	「花をそだてよう“ヒヤシンス”」 (11~12月) ヒヤシンスは咲くのが2月なので遅い。片付けも大変なのではないか。また、置く場所がない。外に置くにしても寒い。ヒヤシンスを変える? 又は短くてよい。	には週1時間では足りない。	○ヒヤシンスの栽培をし、花の特徴や成長の様子を写真に記録して比べる。 ◆栽培を通して、生命や自然の特徴や変化が分かるとともに、感じたこと、気付いたことなどを自分なりの方法で伝えることができる。 ○赤塚公園で草花を見つけて写真で記録したり、遊んだして形や色などの特徴を捉える。春・夏に見つけた草花と比べる。 ◆身近な生命や自然について関心をもって調べる。 ◆日常生活に関わりある生命や自然の特徴や変化が分かる。	小3段階 サ 生命・自然 アイ【動物の飼育・植物の栽培】 小3段階 サ 生命・自然 アイ【自然との触れ合い】
11	「草花や木の葉で遊ぼう“秋・冬”」(11~12月) 寒く、風が強い。季節ごとに必ずやる必要はないと思うので、今回は研究の都合で重さを再度取り扱った。来年度はまだ取り扱っていないゴムの働き、動物などはどうか?		○秤を使って二つのものの重さを比べる。 ◆天秤やばねを使うことができる。 ◆物には重いもの、軽いものがあることに気付く。	
12	「町をしらべてみよう“公園”」		○赤塚公園内で働く人の様子や非常用設備とその役割について調べる。 ◆自分たちの住んでいる街や通っている学校の周辺にある公共施設と役割について知	小3段階 ケ きまり アイ【日常生活のきまり】 コ 社会の仕組みと

R6【生活】単元網羅表

小学部【生活】目標

具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
思考力・判断力・表現力等	(2) 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
学びに向かう力・人間性等	(3) 自分のことに取り組みんだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。

段階の目標	1段階	2段階	3段階
知識及び技能	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や文化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
思考力・判断力・表現力等	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを伝えようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
学びに向かう力・人間性等	ウ 自分のことに取り組みもうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心を持ち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	ウ 自分のことに取り組みもうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとして、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	ウ 自分のことに取り組みんだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。

内容		小1	小2	小3	小4	小5	小6
ア 基本的な生活習慣	食事	日生	日生	日生	日生	日生	日生
	用便	日生	日生	日生	日生	日生	日生
	寝起き	日生 朝の会	日生 朝の会	日生 朝の会	日生 朝の会	日生 朝の会 移動教室事前	日生 朝の会 移動教室事前
	清潔	日生	日生	日生	日生	日生	日生
	身の回りの整理 身なり	日生 日生	日生 日生	日生 日生	日生 日生	日生 生甲「移動教室に行こう」 日生	日生 日生
イ 安全	危険防止	日生/生活単元 階段歩き	日生/生活単元 階段歩き、おもちゃの扱いなど	日生/生活単元 安全な遊び方、遊具・器具の使い方/身近な生活の安全(学級活動等)「避難訓練(ヘルメット)」	日生/生活単元 安全な遊び方、遊具・器具の使い方/身近な生活の安全(学級活動等)「避難訓練(ヘルメット)」	日生/生活単元 安全な遊び方、遊具・器具の使い方/身近な生活の安全(学級活動等)「避難訓練(ヘルメット)」	日生/生活単元 安全な遊び方、遊具・器具の使い方/身近な生活の安全(学級活動等)「避難訓練(ヘルメット)」
	交通安全	生活単元「城北文通公園に行こう」	生活単元「みんなであそぼう」他	生活単元「みんなであそぼう」	生活単元「交通安全教室で学ぼう」	生活単元「赤塚公園に行こう」	生活単元「校外歩行」
	避難訓練	(学級活動等)「避難訓練」	(学級活動等)「避難訓練」	(学級活動等)「避難訓練」	(学級活動等)「避難訓練」	(学級活動等)「避難訓練」	(学級活動等)「避難訓練」
	防災	(学級活動等)「避難訓練」	(学級活動等)「避難訓練」	(学級活動等)「避難訓練」	(学級活動等)「避難訓練」	(学級活動等)「避難訓練」	(学級活動等)「避難訓練」
ウ 目標・予定	目標	日生	日生	日生	日生	生甲「移動教室に行こう」	日生
	目標・予定	日生 「給まりの会」	日生 生活単元「給まりの会」	日生 生活単元「〇学期を始めよう」	日生 生活単元「グループ集会」	日生 生甲「5年生給まりの会」 生甲「移動教室に行こう」	日生 生活単元「給まりの会」
エ 遊び	いろいろな遊び	遊びの指導	遊びの指導	生甲	生甲	生甲「5年生がんばったね」	生甲「ブース遊び」
	遊具の後片付け	日生/遊びの指導 生甲「お楽しみ会をしよう」	日生/遊びの指導 生甲「中庭遊び」「世界の遊び」	日生 生甲「サーキット遊び」「中庭遊び」「ブース遊び」	生活単元「日換せ金メダル」	生甲「ブース遊び」	生甲「ブース遊び」
オ 人との関わり	自分自身と家族	日生/各教科等	日生/各教科等	日生/各教科等	日生/各教科等	日生/各教科等	日生/各教科等
	身近な人との関わり	日生/各教科等	日生/各教科等	日生/各教科等	日生/各教科等	日生/各教科等 生甲「英語で遊ぼう」	日生/各教科等
	電話や来客の取次ぎ	日生/各教科等(来訪に気付くなど)	日生/各教科等(来訪に気付くなど)	日生/各教科等(来訪に気付くなど)	日生/各教科等(来訪の報告など)	日生/各教科等(来訪の報告など)	日生/各教科等(来訪の報告など)
	気持ちを伝える応対	日生/各教科等	日生/各教科等	日生/各教科等	日生/各教科等	日生/各教科等	日生/各教科等
カ 役割	集団の参加や集団内での役割	生活単元「めざせ金メダル」	生活単元「たかしまんピック」 「いろいろなお仕事頑張ろう」他/ 各教科等	生活単元「食べ物祭りをしよう」 「たかしまつり」等	生活単元「世界の遊びをしよう」	生甲「お店屋さんをひらこう」 生甲「1学期を振り返ろう」 生甲「学習発表会がんばろう」 生甲「2学期を振り返ろう」	生活単元「移動教室事前事後」
	地域の行事への参加	学校間交流	学校間交流	学校間交流	学校間交流	学校間交流	学校間交流
	共同での作業と役割分担	生活単元「おにぎりをつくろう」	生活単元「調理学習」他	生活単元「調理学習」等	生活単元「調理(ホットプレート)」	生甲「お店屋さんをひらこう」 生甲「学習発表会がんばろう」	生活単元「調理学習」 生活単元「移動教室事前事後」 生活単元「学習発表会」
手伝い	日生	日生	日生/各教科等	日生/各教科等	日生/各教科等 生甲調理「作って食べよう」	日生/各教科等	

R6【生活】単元網羅表

小学部【生活】目標

具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能 (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等 (2) 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。

学びに向かう力・人間性等 (3) 自分のことに取り組みたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

段階の目標	1段階	2段階	3段階
知識及び技能	自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	特徴や文化に気付くとともに、身の回りの生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	よさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
思考力・判断力・表現力等	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
	ウ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、意欲をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。	ウ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、意欲をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。	ウ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。

学習の段階

学習指導要領
学習項目

	小1	小2	小3	小4	小5	小6
生活	日生	日生	日生	日生	日生	日生

	小1	小2	小3	小4	小5	小6
ア 基本的な生活習慣	日生	日生	日生	日生	日生	日生
イ 安全	日生/生活単元「階段歩き」	日生/生活単元「階段歩き、おもちゃの扱いなど」	日生/生活単元「安全な遊び方、遊具・器具の使い方/身近な生活の安全(学級活動等)」「遊具訓練(ヘルメット)」	日生/生活単元「安全な遊び方、遊具・器具の使い方/身近な生活の安全(学級活動等)」「遊具訓練(ヘルメット)」	日生/生活単元「安全な遊び方、遊具・器具の使い方/身近な生活の安全(学級活動等)」「遊具訓練(ヘルメット)」	日生/生活単元「安全な遊び方、遊具・器具の使い方/身近な生活の安全(学級活動等)」「遊具訓練(ヘルメット)」
エ 遊び	日生	日生	日生	日生	日生	日生
カ 役割	日生	日生	日生	日生	日生	日生

学年

生活
学習指導要領
学習内容

特別支援学校学習指導要領解説
各教科等編（小学部・中学部）
P.552

特別支援学校学習指導要領解説
各教科等編（小学部・中学部）
平成30年3月
文部科学省

特別支援学校学習指導要領解説
各教科等編（小学部・中学部）
各教科 生活 P.51

目標・内容の一覧(生活)

学部	小学部		
内容	1段階	2段階	3段階
社会的仕組みと公共施設	自分の家族や近隣に関心をもつこと及び公園等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の住む地域のことや図書館や公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の地域や周辺の地理などの社会の様子、警察署や消防署などの公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	7) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	(7) 教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気づき、それを表現しようとする。	(7) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。
	(イ) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。	(イ) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。	(イ) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。

学習の段階

学習指導要領
学習項目

- コ 社会の仕組みと公共施設
 - 自分の家族や近隣に関心をもつこと及び公園等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - 7) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。
 - (イ) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。

【学校】：教室の場所や用途に関心をもつこと、学校で働く人に興味や関心を持ち、自分との関わりに気づき、それらの働きを知ることなどの指導内容がある。校内探検などを通して、関心を持ち、その場所や名称を知ることが大切である。先生など、自分に身近な先生が分かり、気づき、関心をもつこと、それぞれの店で売っている品物が分かること、通学路にある店に関心をもつことが大切である。

生活
学習指導要領
学習内容

【社会の様子】：自分が住んでいる地域の自然や街の様子に関心をもつこと、自分が住んでいる地域の自然や街の様子の特徴が分かること、自分の住んでいる地域の名称、住所が分かること、地域や社会の出来事に興味や関心をもつことなどの指導内容がある。自分が住む近所には商店、公園、学校、駅などがあることに気づき、それらに関心をもつことが大切である。

内容		小5
コ 社会の仕組みと公共施設	家族・親戚・近所の人	日生など
	学校	生活「身近な先生のお仕事」
	いろいろな店	生活単元「買い物に行こう」
	社会の様子	生活「町をしらべてみよう~町の安全を守る人たち~」
	公共施設の利用	生活「町をしらべてみよう~町の安全を守る人たち~」 生単「移動教室に行こう」
交通機関の利用	生活単元「移動教室に行こう」	
サ 生命・自然	自然との触れ合い	生活「春を探そう」
	動物の飼育・植物の栽培	生活「花をそだてよう~ヒヤシンス~」
	季節の変化と生活	日生 朝の会など
シ ものの仕組みと働き	物と重さ	生活「ものの重さをくらべよう」
	風やゴムの力の働き	生活「風の力でうごかそう~風の重~」

**指導形態の確認
及び検証**

単元のあてはめ

学部	小学部	学年	5年
教科・領域等名	生活	クラスグループ名	
ねらい	(1) 具体的な活動を通して、社会や自然に関心をもち、生活に必要な習慣や規範を身に付ける。(知・技) (2) 身の回りの生活や社会、自然の関わりについて理解し、感じたことを伝えようとする。(思・判断) (3) 自分のことに取り組みようとして、社会や自然に関心をもち、意欲をもって学んだり生活に生かそうとする。(学・人)		
単元時間	35単位時間		
教科書	「こいこい☆☆☆東京書籍」		
単元名	時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)	学習指導要領 内容
4	4	○学校にある教室の名称や主な用途を調べる。 ◆教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとする。	小2段階 コ 社会の仕組みと公共施設 アイ【学校】
5	5	○赤塚公園で草花を見つけ写真で撮影したり遊んだして形や色などの特徴を足える。 ◆身近な生命や自然について関心をもって調べる。 ◆日常生活に関わりある生命や自然の特徴や変化が分かる。	小3段階 サ 生命・自然 アイ【自然との触れ合い】 初めての「生活科」という授業で、高学年といえども、3段階のみは楽しかった。実態的に1段階も記載することは必須と思います。
7	7	○秤を使って二つのものの重さを比べる。 ◆天秤やはねを使うことができる。 ◆物には重いものと軽いものがあることに気付く。	小3段階 シ 物の仕組みと働き アイ【物の重さ】 同上。
9	9	○消防署や警察署が地域のどこにあるのか探し、働いている人の様子を見学する。 ◆自分たちの住んでいる街や通っている学校の周りにおける公共施設と役割について知	小3段階 コ 社会の仕組みと公共施設 アイ【公共施設の利用】

R6【理科】単元網羅表

中学部【社会】 目標

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって、観察、実験を行うことなどを通して、自然の事象・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	(1) 自然の事象・現象についての基本的な理解を回り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。						
思考力・判断力・表現力等	(2) 観察、実験などを行い、疑問をもつ力と予想や仮説を立てる力を養う。						
学びに向かう力・人間性等	(3) 自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。						
段階の目標	<table border="1"> <tr> <th>1段階</th> <th>2段階</th> </tr> <tr> <td>ア 身の回りの生物の様子について観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。</td> <td>ア 身の回りの生物のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての理解を深め、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。</td> </tr> <tr> <td>イ 太陽と地面の様子について気付</td> <td>イ 太陽と地面の様子、気象現象、月や星についての理解を回り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。</td> </tr> </table>	1段階	2段階	ア 身の回りの生物の様子について観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りの生物のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての理解を深め、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	イ 太陽と地面の様子について気付	イ 太陽と地面の様子、気象現象、月や星についての理解を回り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
1段階	2段階						
ア 身の回りの生物の様子について観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りの生物のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての理解を深め、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。						
イ 太陽と地面の様子について気付	イ 太陽と地面の様子、気象現象、月や星についての理解を回り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。						
知識及び技能	<table border="1"> <tr> <td>A 生命</td> <td>ア 身の回りの生物の様子について観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。</td> <td>イ 身の回りの生物のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての理解を深め、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。</td> </tr> <tr> <td>B 地球・自然</td> <td>ア 太陽と地面の様子について気付</td> <td>イ 太陽と地面の様子、気象現象、月や星についての理解を回り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。</td> </tr> </table>	A 生命	ア 身の回りの生物の様子について観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	イ 身の回りの生物のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての理解を深め、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	B 地球・自然	ア 太陽と地面の様子について気付	イ 太陽と地面の様子、気象現象、月や星についての理解を回り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
A 生命	ア 身の回りの生物の様子について観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	イ 身の回りの生物のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての理解を深め、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。					
B 地球・自然	ア 太陽と地面の様子について気付	イ 太陽と地面の様子、気象現象、月や星についての理解を回り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。					

②学習の段階

①学習指導要領 学習項目

①生活 学習指導要領 学習内容



中1 水色
中2 黄色
中3 ピンク
各教科等
た学習 赤枠
等を合わせた学習

令和6年度 東京都立高島物産技術学校 年間指導計画(理科)

学年	2年			
科目・領域	理科			
クラス・グループ	普通学級			
ねらい	(1)自然の事象・現象について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。(知・技) (2)自然の事象・現象から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力(思・判・表) (3)自然の事象・現象について見いだした疑問をすすんで調べ、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。(主)			
担当教員				
年間授業時数	18単位(学期(社会)合わせて36単位)			
使用教科書				
月	単元名	時数	主な学習内容・ねらい(評価の観点)	学習指導要領 内容
4	「オリエンテーション」	1	○年間の学習内容を学ぶ。	
4	「ヘチマを育てよう①」 「春の生き物(植物)を見付けよう」	2 (3)	○家庭公園(学校内)で春の植物(虫等)を GIGA スケール端末で写真撮影し、観察する。 ○ヘチマを育てる土壌の準備をして、種を蒔く。萌えた後の様子の写真(撮影)を記録する。 ◆季節ごとの身近な生物の活動の様子や、身近な植物の成長の様子の変化に気付き、関心をもち、(思・判・表)	中学部2段階 A生命・季節と生物
5	「夏を育てよう②」 「夏の生き物(植物)を見付けよう」	2	○家庭公園(学校内)で夏の植物(虫等)を GIGA スケール端末で写真撮影し、観察する。 ○ヘチマの成長過程を写真(撮影)を記録する。 ◆季節ごとの身近な生物の活動の様子や、身近な植物の成長の様子の変化に気付き、関心をもち、(思・判・表)	中学部2段階 A生命・季節と生物
6	「秋を育てよう③」 「秋の生き物(動物)を見付けよう」	2	○家庭公園(学校内)で秋の植物(虫等)を GIGA スケール端末で写真撮影し、観察する。 ○ヘチマの成長過程を写真(撮影)を記録する。 ◆季節ごとの身近な生物の活動の様子や、身近な動物の成長の様子の変化に気付き、関心をもち、(思・判・表)	中学部2段階 A生命・季節と生物
7	「冬を育てよう④」 「冬の生き物(動物)を見付けよう」	2	○家庭公園(学校内)で冬の植物(虫等)を GIGA スケール端末で写真撮影し、観察する。 ○ヘチマの成長過程を写真(撮影)を記録する。 ◆季節ごとの身近な生物の活動の様子や、身近な動物の成長の様子の変化に気付き、関心をもち、(思・判・表)	中学部2段階 A生命・季節と生物
8	「春の生き物(動物)を見付けよう」	2	○家庭公園(学校内)で春の植物(虫等)を GIGA スケール端末で写真撮影し、観察する。 ○ヘチマの成長過程を写真(撮影)を記録する。 ◆季節ごとの身近な生物の活動の様子や、身近な動物の成長の様子の変化に気付き、関心をもち、(思・判・表)	中学部2段階 A生命・季節と生物
9	「夏を育てよう⑤」 「夏の生き物(動物)を見付けよう」	2	○家庭公園(学校内)で夏の植物(虫等)を GIGA スケール端末で写真撮影し、観察する。 ○ヘチマの成長過程を写真(撮影)を記録する。 ◆季節ごとの身近な生物の活動の様子や、身近な動物の成長の様子の変化に気付き、関心をもち、(思・判・表)	中学部2段階 A生命・季節と生物
10	「秋を育てよう⑥」 「秋の生き物(動物)を見付けよう」	2	○家庭公園(学校内)で秋の植物(虫等)を GIGA スケール端末で写真撮影し、観察する。 ○ヘチマの成長過程を写真(撮影)を記録する。 ◆季節ごとの身近な生物の活動の様子や、身近な動物の成長の様子の変化に気付き、関心をもち、(思・判・表)	中学部2段階 A生命・季節と生物
11	「冬を育てよう⑦」 「冬の生き物(動物)を見付けよう」	2	○家庭公園(学校内)で冬の植物(虫等)を GIGA スケール端末で写真撮影し、観察する。 ○ヘチマの成長過程を写真(撮影)を記録する。 ◆季節ごとの身近な生物の活動の様子や、身近な動物の成長の様子の変化に気付き、関心をもち、(思・判・表)	中学部2段階 A生命・季節と生物

理科の年間指導計画

■3年目【教科部会】研究の経過

○R7年間指導計画の作成および検証

- ・学年研究会でR6年間指導計画の変更を反映した学年の教科配列表(シラバス)を検証し、見直しを図る。⇒R7年間指導計画の作成に着手
- ・教科部会にて作成したR7年間指導計画の検証

見直しを図った 生活 R6年間指導計画

令和6年度 東京都立高島特別支援学校 年間指導計画【教科】				
学部	小学部	学年	5年	
教科・領域等名	生活		クラスグループ名	
ねらい	(1) 具体的な活動を通して、社会や自然に関心をもち、生活に必要な習慣や技能を身に付ける。(30分) (2) 身の回りの生活や社会、自然の関わりについて理解し、感じたことを伝えようとする。(思・判・表) (3) 自分のことに取り組もうとしたり、社会や自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとする。(学・人)			
担当教員				
年間総時数	35単位時間			
使用教科書	「せい・か・つ・ふ・ふ」東京書籍			
月	単元(教科名)	時数	○主な学習内容、◆ねらい(学習の観点)	学習指導要領 内容
4	「私のまわりの人たち」学校 「草花や木の葉で遊ぼう」春	単元を深めるためには週1時間では足りない。	○学校にある教室の名称や主な用途を調べよう。 ◆教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとする。 ○赤塚公園で草花を見つけて写真で撮影したり、遊んだして形や色などの特徴を捉える。 ◆身近な生命や自然について関心をもち、調べる。 ◆日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かる。	小2段階 コ 社会の仕組みと公共施設 アイ 【学校】 小2段階 サ 生命・自然 アイ 【自然との触れ合い】 初めての「生活科」という授業で、高学年といえども、3段階のみは難しかった。実態的に1段階も記載することは必須と思います。
5	「草花や木の葉で遊ぼう」夏 「音を聞いて真を感じよう」 鼻すまで外に出られない。植物について深く学ぶのは適切な時期ではない。	同上	○赤塚公園で草花を見つけて写真で撮影したり、遊んだして形や色などの特徴を捉える。春に見つけた草花と比べよう。 ◆身近な生命や自然について調べる。 ◆日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かる。 ○効果音を聞いて、真に関わる気候や行事の中で夏のイラストや写真のものを考えよう。 ◆夏の気候や行事について知る。 ◆夏の気候や行事について関心をもち、気付いたことを自分なりに方法で伝える。 ○秤を使って二つのものの重さを比べよう。 ◆天秤やばねを使うことができる。 ◆物には重さ、ものがあることに気付く。	小2段階 サ 生命・自然 アイ 【自然との触れ合い】 小2段階 シ 物の仕組みと働き アイ 【物の重さ】 同上。
6	「町をしらべてみよう」町の安全を守る人たち		○消防署や警察署が地域のごとこあるのか探し、働いている人の様子を見学しよう。 ◆自分たちの住んでいる街や通っている学校の周りには公共施設と役割について知	小3段階 コ 社会の仕組みと公共施設 アイ 【公共施設の利用】



変更点を反映した R6年度学年の教科配列表(シラバス) 教科横断的な視点での見直し

教科	自己紹介をしよう テーマに沿って話そう 小3段階【思・判・表】A聞くこと・話すことイイイ	お話を読もう 【物語・説明文】 小3段階【思・判・表】読むことアイ	言葉をあつめてみよう 小3段階【思・判・表】A聞くこと・話すことイイイ書くことウ	編もう・やってみよう 小3段階【思・判・表】A聞くこと・話すことイイイ	詳しく話そう 小3段階【思・判・表】話すことイイイ	学ばな、学ばなを調べよう 小3段階【知識・技能】ア(ウ)	学ばな、学ばなを調べよう 小3段階【知識・技能】ア(ウ)	
国語	2.0までの表 小3段階【思・判・表】Aア(ウ) B B A A (イ)	3.0までの表 小3段階【思・判・表】A A (イ) B B A A (イ)	1.0までの表 小3段階【思・判・表】A A (イ) B B A A (イ)	1.0までの表 小3段階【思・判・表】A A (イ) B B A A (イ)	1.0までの表 小3段階【思・判・表】A A (イ) B B A A (イ)	1.0までの表 小3段階【思・判・表】A A (イ) B B A A (イ)	1.0までの表 小3段階【思・判・表】A A (イ) B B A A (イ)	
音楽	歌謡【小3段階Aア】	「みんなで仲良く歌おう」	「いろいろな楽器を鳴らしてみよう」	「楽器の音を聴いて鳴らそう」	「リズムに合わせて表現しよう」			
美術	「身近な人の演奏を聴いて好きな音をみつめよう」	「身近な人の演奏を聴いて好きな音をみつめよう」	「身近な人の演奏を聴いて好きな音をみつめよう」	「身近な人の演奏を聴いて好きな音をみつめよう」	「身近な人の演奏を聴いて好きな音をみつめよう」			
図画工作	「身近な生命や自然について関心をもち、調べる。」	「身近な生命や自然について関心をもち、調べる。」	「身近な生命や自然について関心をもち、調べる。」	「身近な生命や自然について関心をもち、調べる。」	「身近な生命や自然について関心をもち、調べる。」			
体育	「身近な生命や自然について関心をもち、調べる。」	「身近な生命や自然について関心をもち、調べる。」	「身近な生命や自然について関心をもち、調べる。」	「身近な生命や自然について関心をもち、調べる。」	「身近な生命や自然について関心をもち、調べる。」			
生活	動物を見てみよう【3段階】 【3段階】 シ 生命・自然	学校の周りを調べよう【3段階】 コ 社会の仕組みと公共施設 校外	ものの重さを調べよう【3段階】 シ 物の仕組みと働き 【3段階】 サ 生命・自然	夏の音を聞こう【3段階】 シ 社会の仕組みと公共施設 校外	色々な花を知ろう【3段階】 シ 社会の仕組みと公共施設 校外	風の方を感じよう【3段階】 シ 物の仕組みと働き 【3段階】 サ 生命・自然	ゴムを使って遊ぼう【3段階】 シ 物の仕組みと働き 【3段階】 サ 生命・自然	町を調べてみよう【3段階】 コ 社会の仕組みと公共施設
生涯学習	消防署や警察署が地域のごとこあるのか探し、働いている人の様子を見学しよう。 自分たちの住んでいる街や通っている学校の周りには公共施設と役割について知	消防署や警察署が地域のごとこあるのか探し、働いている人の様子を見学しよう。 自分たちの住んでいる街や通っている学校の周りには公共施設と役割について知	消防署や警察署が地域のごとこあるのか探し、働いている人の様子を見学しよう。 自分たちの住んでいる街や通っている学校の周りには公共施設と役割について知	消防署や警察署が地域のごとこあるのか探し、働いている人の様子を見学しよう。 自分たちの住んでいる街や通っている学校の周りには公共施設と役割について知	消防署や警察署が地域のごとこあるのか探し、働いている人の様子を見学しよう。 自分たちの住んでいる街や通っている学校の周りには公共施設と役割について知			
行事・交流・イベントなど	清掃体験	（ポチャ集会）	夏休み	移動教室	学習発表会 高三小交流会 （ポチャ）	お正月	卒業式 修了式	

R7年間指導計画の完成 (生活)

①教科の単元配列表

②教科の学年配列表

③R6学年の教科配列表

④単元網羅表 (生活・理科・社会)

令和7年度 東京都立高島特別支援学校 年間指導計画					
学部	小学部	学年	5年	児童・生徒数	名
教科・領域等名	生活科		クラス/グループ名		3段階
ねらい	(1) 具体的な活動を通して、社会や自然に関心をもち、生活に必要な習慣や技能を身に付ける。(知・技) (2) 身の回りの生活や社会、自然の関わりについて理解し、感じたことを伝えようとする。(思・判・表) (3) 自分のことに取り組みようとして、社会や自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとする。(学・人)				
担当教員	有井 井上				
年間授業時数	35 単位時間				
使用教科書	「せいかつ☆☆☆」東京書籍 (98)				
月	単元(題材)名	時数	ねらい(評価の観点)	主な指導内容・指導の工夫	学習指導要領 内容
4	「動物を見てみよう」	2	「関心をもって動物の動画を観る。①」 「動物について気付いたことを表現する。②」	「動物の名称や特徴を捉えることができる動画を観る。」	小3段階 サ 生命・自然 アイ
5	「学校の周りを調べよう(広域)」	5	「学校の周りにある施設や位置関係について知る。①」 「学校の周りにある施設や位置関係について関心をもち、気付いたことを表現する。②」	「消防署や警察署、図書館、駅などが地域のどこにあるのかを調べる。」	小3段階 コ 社会の仕組みと公共施設 アイ
6	「物の重さを調べよう」	5	「天秤やばねを使うことができる。①」 「物には重いものと軽いものがあることに気づき、表現する。②」	「秤を使って二つのものの重さを比べる。」	小3段階 シ 物の仕組みと働き アイ
7	「夏の音を聞こう」	1	「夏の気候や行事について知る。①」 「夏の気候や行事について関心をもち、気付いたことを表現する。②」	「効果音を聞いて、対応する選択肢(夏の気候や行事など)を選ぶ。」	小3段階 サ 生命・自然 アイ
9	「消防署、警察署を調べよう」	6	「学校の周りにある公共施設と役割について知る。①」 「学校の周りにある公共施設と役割について、気付いたことを表現する。②」	「消防署や警察署で働いている人の様子を見学し、まとめる。」	小3段階 コ 社会の仕組みと公共施設 アイ
10	「色々なお店を知ろう」	1	「色々な種類の店を知る。①」 「商品の売れなどへの関心を高める。②」	「近隣の店舗の写真や、物流に関する動画を観る。」	小3段階 コ 社会の仕組みと公共施設 アイ
11	「花をそだてよう(ヒヤシンス)」	1	「植物の特徴を知る。①」 「植物について、気付いたことを表現する。②」	「ヒヤシンスの栽培をし、球根の様子を写真に記録する。」	小3段階 サ 生命・自然 アイ
12	「風の力を感じよう」	4	「風の強さを変えると、物が動く様子が変わること気付く。①」 「風の強さと物の動き方について気付いたことを表現する。②」	「空気を可視化された空気を観たり、様々な物を動かしたりする。」	小3段階 シ 物の仕組みと働き アイ
1	「ゴムを使って遊ぼう」	5	「ゴムの大きさを変えると、物が動く様子が変わること気付く。①」 「ゴムの大きさと物の動き方について、気付いたことを表現する。②」	「ゴムを使ったおもちゃを動かす。」	小3段階 シ 物の仕組みと働き アイ
2	「町をしらべてみよう(公園)」	5	「学校の周りにある公共施設と役割について知る。①」 「学校の周りにある公共施設と役割について、気付いたことを表現する。②」	「赤塚公園内で働く人の様子や非常用設備とその役割について調べる。」	小3段階 コ 社会の仕組みと公共施設 アイ

※ねらいでは、文末に3観点の項目を次の番号で入力する。(1)「知識・技能」、(2)「思考・判断・表現」、(3)「主体的に学習に取り組む態度」

■3年目 【教科部会】研究の成果と課題

【成果】

・昨年度に引き続き年間指導計画を見直すことで、より学年の系統性や順序性、教科横断的な視点が整った年間指導計画を作成することができた。

【課題】

・授業時数によっては、教科別の指導だけでは学習の深まりが不十分な学習内容がある。各教科等を合わせた指導などうまく組み合わせる必要がある。

・取り扱いきれっていない学習内容について、どの指導形態で行うのか教科間をまたいでの検証が必要である。

■3年目【学年研究会】研究の経過

単元の学習計画の蓄積

指定された教科・教科等合わせた指導について

- 4～10月で扱う単元の単元計画の作成
- 教科的見方・考え方を働かせる

エピソードの蓄積

- 個別の指導計画に準拠した評価基準の作成
- 指導と評価の一体化できた単元の作成、
妥当性の検証
- 効果的な指導形態の検証

各学年指定の研究教科
の実施

小1～4→生活単元学習

小5・6→生活

中1→社会

中2→理科

中3→理科

■3年目【学年研究会】研究の経過

5月・10月の奥住先生の助言

5月：単元の様式：エピソードは三段階に分けて記入する。

今後の研究：単元網羅表の作成。

10月：評価規準とともに三段階の評価基準も書く。

個別指導計画に対応していることを表現。

■ 3年目 【学年研究会】研究の成果と課題

【R6年度版 単元の学習計画様式】

令和6年度単元計画

11 学級、教科、単元目標

学年・グループ	児童・生徒数
各教科等者	単元(題材名)

単元目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
本単元に関連する学習指導要領の内容・改訂		

21 単元の評価

評価	標準	程度
A	習熟段階	
B	習得段階	
C	基礎段階	

	◎	○
	◎	○
	◎	○
	○	◎

※◎最も重点的 ○重点的

41 研究会にて取り扱う授業の展開(日時)

学習内容	具体的な活動	指導の手立て・留意点
導入(0分)		
展開(0分)		
まとめ(0分)		

51 評価

学習評価

A	習熟段階
B	習得段階
C	基礎段階

教科や各教科等を合わせた指導で実施した方が妥当な学習内容について

指導形態、学習内容について

単元の学習計画の例

○小学部第6学年

生活 単元名「公共施設を調べよう」

単元目標		
知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<p>①郵便局や図書館に関心をもっている。</p> <p>②郵便局や図書館の役割を知ろうとしている。</p> <p>③郵便局や図書館を利用する際、ルールやマナーを守って利用している。</p> <p>④施設を支えている人たちがいることがわかっている。</p>	<p>①郵便局と図書館、それぞれの役割を知り、表現する。</p> <p>②郵便局や図書館で働く人の役割を知り、表現する。</p>	<p>①郵便局や図書館への関心を持ちながら、正しく利用する。</p>

○小学部第6学年

单元名「公共施設を調べよう」

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準		<ul style="list-style-type: none"> ①郵便局や図書館に関心をもっている。 ②郵便局や図書館の役割を知ろうとしている。 ③郵便局や図書館を利用する際、ルールやマナーを守って利用している。 ④施設を支えている人たちがいることがわかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①郵便局と図書館、それぞれの役割を知り、表現している。 ②郵便局や図書館で働く人の役割を知り、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①公共施設を利用して生活していることに気づく。 ②公共施設を利用すると自分たちの生活が楽しくなることに気づく。
評価基準	習熟段階	<ul style="list-style-type: none"> ①郵便局と図書館の場所が、これまでの学習でわかっている。 ②郵便局や図書館を利用する際のルールやマナー意識して利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①郵便局と図書館、それぞれの役割と特徴を知り、新聞や言葉で伝えようとしている。 ②働いている人の役割を知り、発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分が生活している近くに公共施設があることに気づき、意欲的に覚えようとする。 ②公共施設を利用することで得られる楽しさを知ることができる。
	習得段階	<ul style="list-style-type: none"> ①動画や画像で確認すると、郵便局と図書館の場所が分かる。 ②郵便局や図書館の役割がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①郵便局と図書館、それぞれの役割を知り新聞で表現しようとしている。 ②働いている人の役割に気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分が生活している近くに公共施設があることに気づくことができる。 ②公共施設を楽しく利用することができる。
	基礎段階	<ul style="list-style-type: none"> ①郵便局や図書館を利用する経験を通して、役割が分かる。 ②郵便局と図書館の場所が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①郵便局と図書館、それぞれの役割を新聞に表現しようとする。 ②働いている人に気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①身近な公共施設を知ることができる。 ②公共施設を利用することができる。

○小学部第6学年

单元名「公共施設を調べよう」

エピソード			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習熟段階	<ul style="list-style-type: none">公共施設を利用する際のマナーとして、「静かにするよ」と他の児童に教えてあげる姿が見られた。	<ul style="list-style-type: none">郵便局や図書館は「何をやる場所か」の発問に、「図書館は本がたくさんある」「郵便局は手紙を届けてくれる」など、適切な役割を発表することができた。郵便局の画像を見て、「郵便局、手紙を出すところ」と答えることができた。手紙を書くときに必要なことを正しく答えることができた。	<ul style="list-style-type: none">郵便物が届く様子を興味をもって見ていた。手紙に興味をもち、後日、他のクラスの友達に手紙を書いて渡していた。
習得段階	<ul style="list-style-type: none">図書館では、マナーを守って静かに本を読むことができた。	<ul style="list-style-type: none">友達の写真を近くにおいて、イラストを貼ったり、書いたりして手紙を完成させることができた。「〇〇くんに出したい」と教員に伝えることができた。	<ul style="list-style-type: none">「ゆうびんやさん」といいながら、赤い帽子を被って、ポストから手紙を運ぶようなごっこ遊びをしていた。
基礎段階	<ul style="list-style-type: none">図書館、郵便局の画像や動画に注視して見ることができた。	<ul style="list-style-type: none">図書館にある物、郵便局にある物を正しく分類することができた。	<ul style="list-style-type: none">ポストに手紙を出すところに興味をもって見ていた。手紙が届いて嬉しそうにしていた。

■ 3年目 【学年研究会】研究の成果と課題

【成果】

- ・指導形態について、教科別の指導を実施することで学習内容を深めて指導にあたることができたことから、効果的であることが分かった。
- ・単元計画に3段階の評価基準を立てたことで、個別指導計画と繋げやすく、評価の観点が明確になり、学習評価がしやすかった。

【課題】

- ・扱う単元によっては、教科別の指導で扱う内容と各教科等を合わせた指導で扱う内容を分けて関連付けるなど、効果的な指導形態についてより整理できると良い。
- ・評価規準の根拠が不十分であり、妥当性や信頼性について今後も引き続き学年や組織といった学校全体で検討が必要である。

■研究の成果と課題

【成果】

・研究の目的を達成すべく、研究の方法として掲げた

①単元配列表の構築

②教育課程におけるPDCAサイクルの確立

③単元の学習計画の蓄積

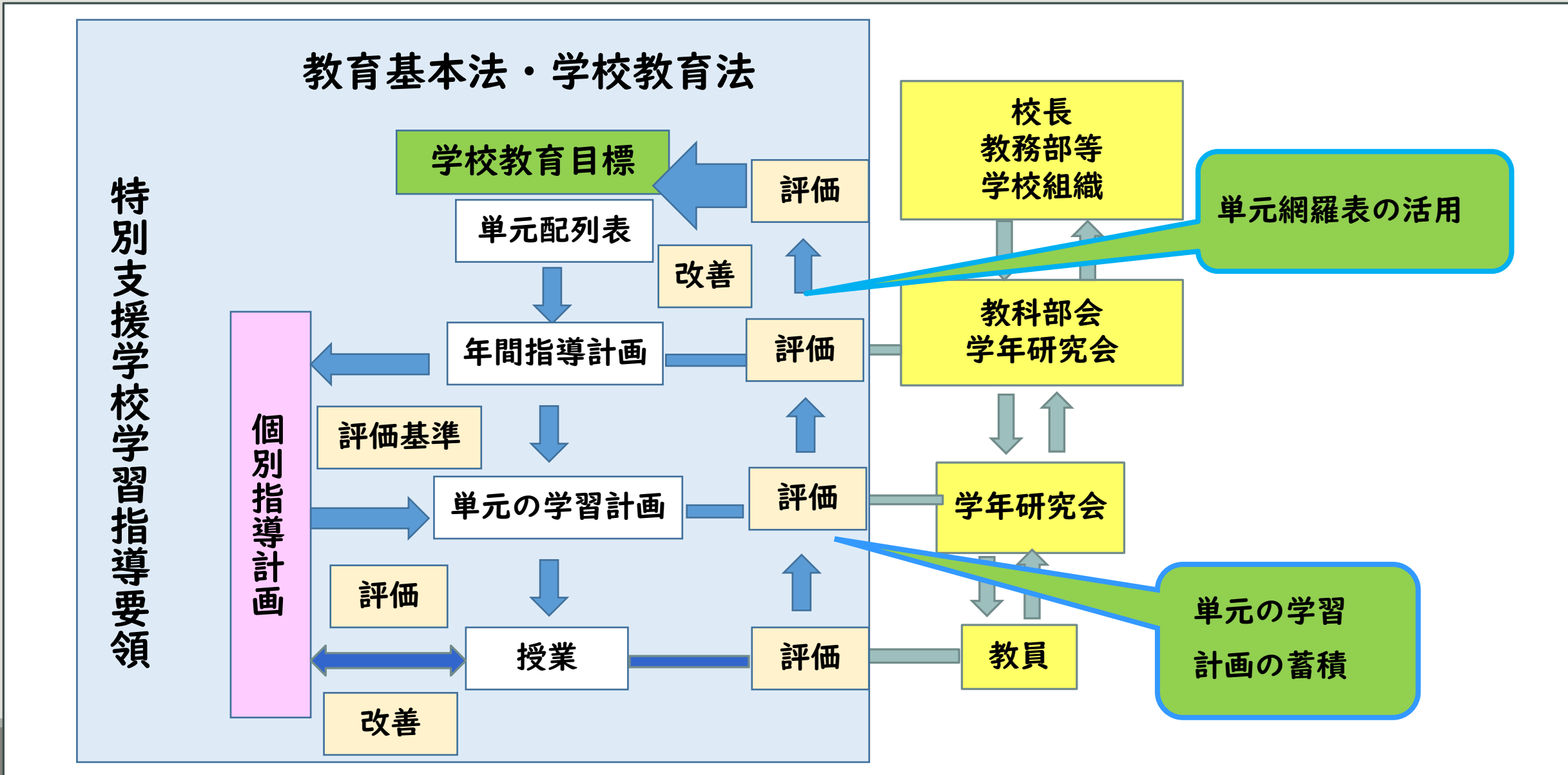
を実施することができた。

【課題】

・3観点を踏まえた学習評価の実施のシステム化に関して、教科的な見方・考え方の理解や、評価規準の根拠が不十分であり、今後も学校全体で検討する場が必要である。

・指導形態について、教科部会でのさらなる検証や教科間をまたいでの検討が必要。引き続き学校全体で組織的に検討し、取り組んでいく必要がある。

■高島特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントを踏まえた教育課程の編成及び評価（高島スタンダード）の図



■研究のまとめ

- ・本校のカリキュラム・マネジメントのシステム、高島スタンダードは単元配列表、単元網羅表、個別指導計画、年間指導計画を学校全体で組織的、計画的に作成し、この4つのツールを上手く組み合わせることで、維持・改善されていく。
- ・研究開発する過程に全教員が関わることで、教育課程を意識し、学校全体で「カリキュラム・マネジメント」を考えるようになった。
- ・高島スタンダードはこれで完成し終わりなのではなく、今後もしも移り変わる年月の中で、その年、時代に合わせて毎年見直し続けていくことが大切である。
- ・学年会や教科部会、校務分掌といった学校組織が連携し、学校全体として取り組むことができる仕組みづくりが重要である。
- ・今後も引き続き、この整理したカリキュラム・マネジメントの仕組みを生かし、教育活動の質の維持・向上を図っていきたい。

ご清聴
ありがとうございました



〈参考文献・参考資料〉

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）（文部科学省）

特別支援学校学習指導要領解説 総則編（小学部・中学部）（平成30年3月）（文部科学省）

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月）（文部科学省）

年間指導計画システムの理念と実践 知的障害教育スタンダード（編著：分藤 賢之 著：菅野和彦・加藤宏昭・奥住秀之）（2023）（ジヤース教育新社）

「見方・考え方」を働かせる特別支援教育の授業づくり（編集、著：新井英晴）（2024）（明治図書出版）

知的障がいのある児童生徒のための各教科の指導の充実～授業づくりのポイント&実践事例集～（令和3年2月 福島県特別支援教育センター）

「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」（令和2年4月）（文部科学省）

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日）